

一部勝訴！  
報告

日本古代史ネットワーク  
2025年2月22日  
丸地三郎

## 日本古代史ネットワークの訴訟目的

1. 奈文研より公開された年輪年代の基礎情報を、一般公開し、追加検証を可能とすること。
2. 国・公立の研究機関の研究発表に関わる情報を、情報公開請求によって、入手可能とすること。
3. 国・公立の研究機関が、自発的に研究の基礎情報を公開するように、社会にアピールし、実現したい。

## 裁判の経過

- 2021年7月 情報公開請求書提出
- 2021年9月 不開示回答
- 2022年1月 裁判所へ提訴
- 2022年3月 第一回（公判）

途中2回奈文研の現地調査・打ち合わせ

- 2024年7月 光谷氏 再計測データ発表
- 2024年11月 第24回（公判）
- 2024年12月 奈文研 情報公開実施発表
- 2025年1月23日 結審予定

## ● 年輪年代データをデジタル公開、他者による追検証を可能なものとする！

- 年輪年代が導出された試料の年輪幅時系列、年輪幅計測用画像等の年輪年代データをデジタル公開することにより、年輪年代測定の根拠を示すとともに、他者による追検証を可能なものとする。
- 研究データのオープンアクセス化は今後の必須課題となっている(\*2)。
- 「独立行政法人日本学術振興会の事業における研究データの取扱いに関する基本方針」に言及。
- 暦年標準パターンの公開は「他者による追検証」に必須の為、その開示が待たれる！



井戸から出土した土器



別紙公開する年輪年代データの試料が出土した井戸(平城宮いざない館における常設展示)

(拡大)

別紙公開する画像例(曲物底板の年輪幅計測線ファイル)

29h0102  
117  
91  
120  
79  
98  
82  
102  
104  
98  
36  
70  
49  
69  
71  
52  
68  
73  
35  
58  
55  
61  
50  
52  
62  
73  
86  
92  
91  
68  
79  
71  
64  
57  
55

62  
41  
57  
49  
61  
42  
53  
61  
50  
52

59  
31  
55  
50  
54  
58  
30  
50

- 2024年7月10日発表:和泉市・泉大津市教育委員会、国立歴史民俗博物館などが「池上曾根遺跡」の大型掘立柱建物の柱材を、年輪幅および酸素同位体比の2つの異なる年代測定を実施しました。
- その結果、
  - 1997年に報告された1本は紀元前52年に伐採されたことが再確認
  - 他の柱からは、紀元前52年から最大で700年も古い年代が得られ、
  - 1つの建物の柱に大きな年代の隔たりがあったことが判明しました。
  - これほど大きな年代差のある木材で構築された建造物は日本では類例がなく、非常に特殊な存在。
- 1997年の光谷氏の年代計測は、誤りが有った。
  - 光谷氏が、「年輪年代法」で再計測し、誤りを正し、新しい年代を発表。
  - 名古屋大学・歴博が「酸素同位体比年輪年代法」で計測し、光谷氏の再計測を正しいと裏付けた。
    - 同じ柱＝試料(サンプル)を二つの異なる科学的な方法で計測し、正しさを確認した。
    - 但し、思いがけない不思議な結果(700年も異なる年代の木材を同一建物に使用)に驚かされた。
      - この不思議な現象が注目された。

朝日新聞デジタル > 記事

## 柱の年代、なぜバラバラ？ 大阪・池上曾根遺跡の再計測で浮上した謎

🔒 有料記事  
編集委員・中村俊介 2024年11月6日 11時00分

📧 f X B! ...  
List 1



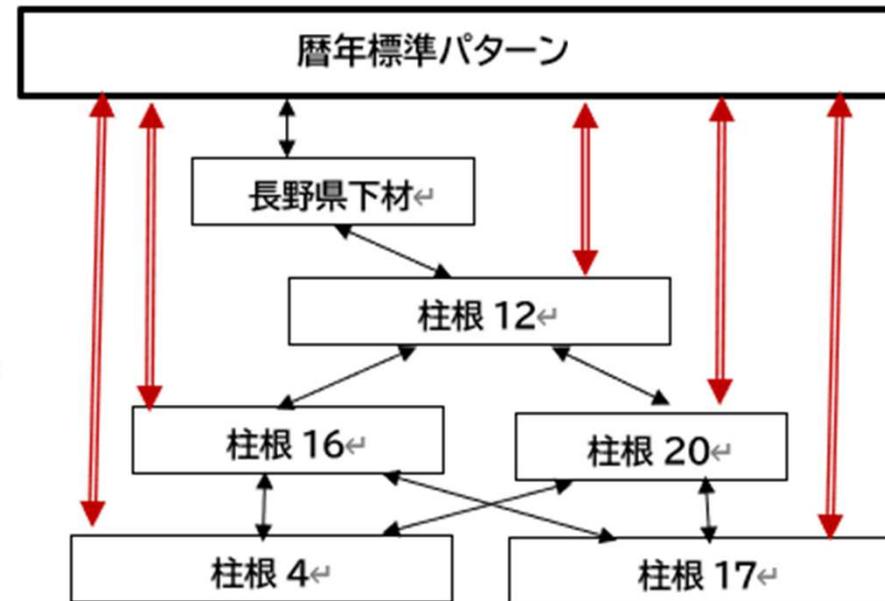
弥生時代の「神殿」ともいわれる池上曾根遺跡（大阪府）の大型建物に謎が生まれた。複数の柱の年代を再計測すると、最大で700年以上も離れたバラバラな測定結果が出た。なぜ「同じ建物の柱なのに、こんな例は知らない」と研究者は首をかきしげる。いったい、どうということ？

同遺跡の大型掘立（ほったて）柱建物跡（中期）が一躍有名になったのは1990年代のこと。柱の根本が腐らず残っていた18本のうち、5本について 奈良国立文化財研究所（当時）が年輪年代法で古さを測定。1本が紀元前52年という値をはじき出し、これが建物の建築年代となった。あとの4本もほぼ同じこととされた。

年輪年代測定は、年ごとに変化する樹木の年輪幅を測る方法で、「ものさし」となる標

# 池上曾根遺跡の計測に関する疑念

- 季刊「邪馬台国」101号 2009年4月号
  - 郷土史家 山口順久氏（古代史の海16号1999年発行の転載）の記事
  - 新井宏氏 の記事
- 通常は、ものさしとなる暦年標準パターンと、サンプルの年輪幅のパターンを比較し、年代を決定する。
- サンプルの柱は5本年代が計測されたが、今5本とも暦年標準パターンとは**照合できなかつた**。
- そこで、既に照合が出来ていた長野県下材の年輪幅パターンと照合してみた結果、柱根12だけが照合できた。(BC52年)
- この柱根12の年輪幅パターンと照合すると、柱根16と柱根20が照合できた。
- 柱根16と柱根20の年輪幅パターンと照合すると、柱根4と柱根17が照合できた。
- この外の組み合わせでは、まったく照合できなかつた。
- これは、通常**の**暦年標準パターンと対象のサンプル木材を照合することとは**違い**、**危険性のある照合方式であったと、記載している**

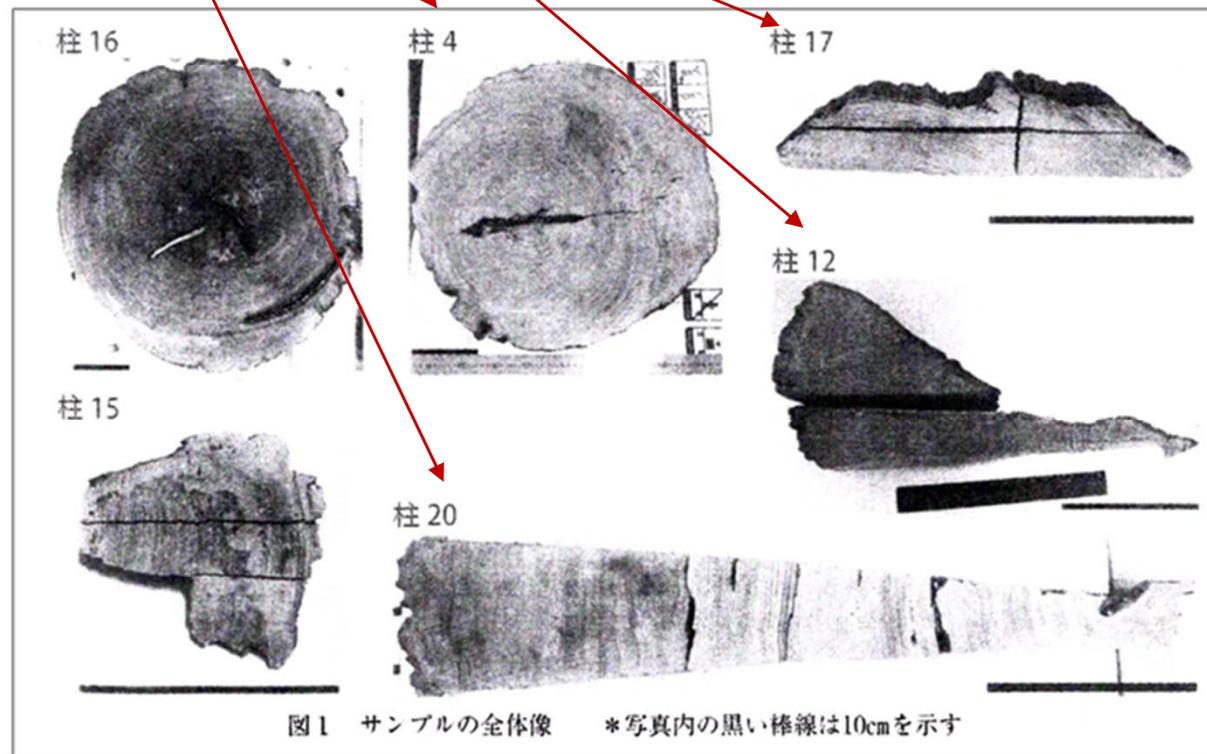


情報公開が行われると、

- 1) 対象試料(サンプル)の年輪巾データと、比較した暦年標準パターン・データが公開される
- 2) 山口順久氏/新井宏氏の記事の正否が判明する。

# 再検証の不思議なこと

光谷発表			酸素年代			光谷発表		酸素年代	光谷発表	酸素年代
柱No	柱列	材・種	年輪数	総年輪数	測定年輪数	前回年代 (B.C.)	新年代 (B.C.)	酸素年代 (B.C.)	形状	水谷記述
4	北	ヒノキ	184	373	371	93	403	405	C	辺材なし
12	南	ヒノキ	248	303	278	52	52	64	A	樹皮付き
16	南	ヒノキ	358	355	353	113	782	782	C	辺材なし
17	南	ヒノキ	253	85	78	113	221	224	C	辺材なし
20	南	ヒノキ	252	459	448	56	520	528	B	辺材有り
15				120	107			92		対象外



酸素年代側の発表資料中に試料の写真有り。

柱17の試料は、部分提供

柱4は、光谷氏の年輪数は大幅に異なる。

柱20は、光谷氏の年輪数は大幅に異なる。

## 専門機関の設立も期待

寺沢薫(桜井市纏向(まきむく)学研究センター所長(考古学)の話

- 近年は自然科学の成果が考古学にもどんどん取り込まれるようになっている。
- 日本の年輪年代研究は奈良文化財研究所で始まったが、当初は同じ分野の研究者がほとんどおらず、チェック機能が十分とはいえなかった。
- 今後、データが開示されて、
  - 年代がどのように特定されていったかを他の研究者がチェックできるのは年輪年代研究にとって大きな前進だ。
- できることなら、年輪年代を扱う専門機関を設立してもいいのではないか。